

2020年春入試問題紹介

教科担当者が選ぶ「この1問」

保護者向け総合情報サイト「Z-SQUARE」で好評連載中の「カコモンにTRY!」の特別版として、数ある難関校のなかから中学受験コースの教科担当者が選んだ、差がつく「この1問」をご紹介します。まだこれらの問題が解ける必要はありませんが、この機会に難関中学の入試問題を体験してみてください。

「カコモンにTRY!」特別版



国語 M.O. 担当者が選ぶこの1問
灘中学校 1日目 大問四

四 次の1〜6の各文について、線部の敬語の使い方が正しいか、誤っているかを○を記入し、まちがっている場合は正しい表現を答えなさい。

1 私は先生の姿を初めてご覧になりました。
2 私は先生の家にいらつしやいました。
3 先生は「こんにちは」とおっしゃいました。
4 先生は私に本をさしあげました。
5 私は先生の家で夕食をめしあげました。
6 先生が教室においてになりました。

解答形式にも注意しよう
正しい敬語の使い方が問われる問題

演習を繰り返し 使える知識として定着させよう

文中に使われている敬語が正しいかどうかを答える問題です。誤っている場合、正しい表現を答えなければならないので、敬語が、使える知識として定着しているかどうかを試されます。今回問題に登場しているのは尊敬語と謙譲語ですので、文の主語はだれか、敬意の対象はだれか、に注意することが大切です。――線部以外の部分まで書いてしまったり、誤った使い方をしている問題に×をつけてしまったり、といったケアレスミスにも気をつけながら、素早く解いて得点につなげましょう。

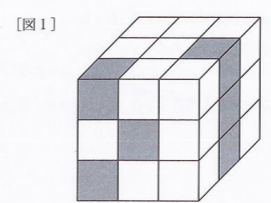
差がつく! 学習アドバイス

文法問題は多くの学校で出題されますので、必ず対策しておきたい部分です。今回のように、敬語を正しい表現に直したり、ほかと違う使い方をしているものを選んだり、実際に文中でどのように用いられているかを問う問題形式が多いため、入試レベルの問題演習を繰り返すことが不可欠となります。Z会の中学受験コースでは、「エブリスタディ アドバンス」内の「言葉の学習」と練習問題で文法の基礎を固めるとともに、『漢字と言葉 練習ブック』で演習量を増やすことができます。教材を活用して、定着させていきましょう。



算数 江上 智美 担当者が選ぶこの1問
慶應義塾中等部 【6】

【6】 1辺が1cmの2種類の立方体A、Bがあります。立方体Aは重さが5gで表面が白く塗られていて、立方体Bは重さが7gで表面が黒く塗られています。次の□に適当な数を入れなさい。



- (1) 立方体Aと立方体Bを合わせて27個使って[図1]のような1辺が3cmの立方体を作りました。この立方体全体の重さは最も軽い場合で□g、最も重い場合で□gです。
- (2) 次に、立方体Aと立方体Bを合わせて64個使って、1辺が4cmの立方体を作ったところ、その重さは378gでした。この立方体の表面全体のうち、黒く塗られている部分の面積の和は、最も小さい場合で□cm²、最も大きい場合で□cm²です。

立体、つるかめ算、場合の数などを絡めた融合問題

情報を整理する力が問われる

立体の問題のように見えますが、立体、つるかめ算、場合の数などを絡めた融合問題です。重さ、個数、表面の色など、条件が複数ありますから、まずはそれらの条件からどんな情報が得られるのかを整理することが必要です。そのうえで、自分がほしい結果を得るには何をどう使えばよいかを見抜く判断力が要求されます。解答に至るまでの手数が多いので、速く正確に判断し続けなければならない、骨のある問題です。

差がつく! 学習アドバイス

分野融合の骨太な問題が相手であっても、まずは基本の手法をしっかりと身につけることが大切なのは言うまでもありません。中学受験コースでは、5年生3月「つるかめ算」、5年生6月「立体」などを含め、5年生までの学習で入試算数で扱う手法をひとつおろし学びます。そのうえで、6年生以降の学習では、身につけた手法を取り出してきて活用する練習や、手法を見抜く訓練も取り入れた総合的な問題に取り組みます。6年生の後半では、答えを得るまでの手数が多い、骨太な問題にも多く取り組みます。これらの問題を通して、多くの情報を速く正確に処理する力を身につけます。



理科 片山 大輔 担当者が選ぶこの1問
雙葉中学校 4問4問5

NASA はアポロ計画以来となる月の有人探査を2024年に行うアルテミス計画を発表し、日本の宇宙航空研究開発機構(JAXA)も技術協力などを行うことが発表されました。人類が再び月面に立つ日が来るのも、そう遠い日ではありません。

問4 きつと月面では地球が太陽をかすめ日食を見ることができるといいます。そのとき、地球ではどのような天文現象が見られますか。

問5 月面に立った人類が皆既日食を見ることができたならば、それは地球で見る皆既日食と比べてどのような違いがあると思いますか。

理科関連のニュースに注目し 関連する単元について 十分な理解をしておこう

理科の入試問題では、時事的な内容を題材に出題されることがあります。ここでは、2019年の秋に日本が月面の有人探査計画への参画を決定したことに関連して出題された問題を取り上げました。「天体」は中学入試でも頻出テーマの1つです。しかし本問は月から見た地球・太陽についての問題であり、日食の原理をどれだけ深く理解しているかどうかで正否が決まります。ニュースに関連した内容を単なる知識として覚えるだけでなく、その原理も含めて身につけることができれば、他の受験生と差がつく得点源となっていくでしょう。

差がつく! 学習アドバイス

まずは頻出分野の単元の知識を固め、その後多くの問題に触れ、慣れることが大切です。Z会の中学受験コースでは、実験・観察の問題を多く取り入れ、結果を読み取る練習や、知識を組み合わせて考える練習を積み、思考力を鍛えます。また、時事問題は、ニュースを事実として知るだけでなく、その事柄に関連した知識も身につける必要があります。理科の時事問題は、地学分野からの出題が多いので、天体、地震、火山、気象関連の大きなニュースがあった場合は、関連している単元について確認しておくことをおすすめします。地学分野以外では、ノーベル賞、絶滅危惧種、外来種、環境問題などから出題されています。また、オリンピックに関連するニュースにも注目しておくといでしょう。

中学入試で「天体」は頻出! 日食に関する時事問題



社会 西田 聡美 担当者が選ぶこの1問
女子学院中学校 III 問2

問2 2019年4月から、より多くの職種で外国人労働者の入国が認められるように法律が改正されました。外国人労働者に関して、正しいものを2つ選び、記号で答えなさい。

ア 大企業の多くは、外国人労働者の受け入れ拡大に反対している。
イ この改正には国内の深刻な労働力不足を補う目的がある。
ウ 同じ業務に就いていても、日本人と異なる安い賃金が認められている。
エ 建設現場や介護施設などでは高度な意思疎通が必要のため、外国人労働者を雇うことはできない。
オ 日本で働くすべての外国人は、家族と一緒に日本に滞在できる。
カ 外国人労働者の受け入れには本来、学んだ技能を持ち帰り、母国の産業育成を支援する目的がある。

社会で起きていることに興味をもち いろいろな視点から考える

日本における外国人労働者に関する時事問題です。2018年に入国管理及び難民認定法が改正され、「特定技能1号」「特定技能2号」という在留資格が新設されました。この問題の選択肢では、法律改正の目的や改正の内容、外国人労働者の現状など多くのことが取り上げられており、1つのテーマについて多角的に考察する力が求められています。この法律が改正されたことで、今まで許されていなかった業種でも外国人労働者の受け入れが可能になりました。なぜ可能にする必要があったのかのポイントです。

差がつく! 学習アドバイス

中学入試では労働にかかわる時事問題として、働き方改革や人工知能(AI)なども取り上げられています。今回のような正誤を判断する問題では、誤った箇所を正しい文に修正できるようにしておくといでしょう。時事問題はニュースとして知っておくだけでなく、そのできごとの背景や問題点、関係する知識も整理しておくことが必要です。Z会中学受験コースでは、時事問題を6年生で重点的に学習することに加え、5年生と6年生に定期配信される月刊社会ニュース(トータル指導プランのみ)で、日頃から時事問題に触れることができるようになっています。

多角的に考察する力が求められる 外国人労働者に関する時事問題